

新版 指導要文集

しんぱん

しどうようもんしゅう

だいにしょう

じっせん

第二章 実践

だんけつ

団結

なんじ らんしつ とも まじ まほ しょう な
汝、蘭室の友に交わって麻畝の性と成る。

002 立正安国論
りっしょうあんこくろん

だんけつ
団結 43 ページ 5 行

らんしつ とも にちれん き きぶく
あなたも蘭室の友、つまり日蓮のもとへ来て帰伏することによ

よもぎ ま じゃしん あさ しょうしん
り、蓬のように曲がっていた邪心が、麻のごとくすなおな正信に

なることができたのです。

げどう あくにん によらい しょうほう やぶ ぶつで しとう かなら

外道・悪人は如来の正法を破りがたし。 仏弟子等、必ず

ぶつぼう やぶ しし しんちゅう むし しし は とううんぬん

仏法を破るべし。「師子身中の虫の師子を食む」等云々。

だいかほう ひと ほか かたき 破 した やぶ

大果報の人をば他の敵やぶりがたし、親しみより破るべ

し。

(122 佐渡御書 さどごしよ)

だんけつ 団結 1286 ページ 7 行

げどう ぶつきよういがい おし ひと あくにん ほとけ と ただ

外道（仏教以外の教えをたもつ人）や悪人は、 仏の説いた正

ほう やぶ ほとけ でし うち

しい法を破ることはできません。むしろ仏の弟子たちが内から

ぶつぼう やぶ しし たいない がいちゅう

仏法を破るものなのです。それはちやうど師子の体内にすむ害虫

しし

だいかほう ひと

が、師子をくうといわれているようなものです。また大果報の人を、

ほか かたき やぶ

した

ひと

やぶ

他の敵は破ることはできません。親しくしている人たちが破るの

です。

ににんいちどうぎくるまふた輪とりふたはね

二人一同の儀は、車の二つのわのごとし、鳥の二つの羽

さいしとうなか違たもににん

のごとし。たとい妻子等の中のたがわせ給うとも、二人の

おんなかふわおそそうらにちれん尊

御中、不和なるべからず。恐れ候えども、日蓮をたいと

思合たまなかふわたも

しとおもいあわせ給え。もし中不和にならせ給うならば、

みようがおぼ

・の冥加いかながあるべかるらめと思しめせ。あなかし

おのおのたまひとびと

こ、あなかしこ。各々みわきかたきもたせ給いたる人々な

り。

185 兵衛志殿御返事 (兄弟同心の事)

ひようえのさかんのごへんじきようだいどうしんこと

うち
ろんい
きた
内より論出で来らば、
いつぼう
あいひし
ぎよふ
恐
あ
鵜蚌の相扼ぐも漁夫のおそれ有るべ
し。

ひょうえのさかんどのごへんじ
185 兵衛志殿御返事
きょうだいどうしん
こと
(兄弟同心の事)

だんけつ
1503 団結
ページー11行

ほうもん いちもん

この法門の一門、いかなる本意なきことありとも、みずき

見聞

言

かずいわずしてむつばせ給え。

睦

たま

いんとくようほうごしよ

(217 陰徳陽報御書

だんけつ

団結

1613

ページー6行)

そう
にちれん
でしだんなとう
じた
ひし
こころ
すいぎよ

総じて、日蓮が弟子檀那等、自他・彼此の心なく、水魚

おも
な
いたいどうしん
なんみようほうれんげきよう
とな

の思いを成して、異体同心にして南無妙法蓮華經と唱え

たてまつ
しょうじいちだいじ
けつみやく
い

奉るところを、生死一大事の血脈とは云うなり。しか

いま
にちれん
ぐつう
しよせん

も、今、日蓮が弘通するところの所詮これなり。もししか

こうせん
ふ
だいがん
かな

らば、広宣流布の大願も叶うべきものか。あまつさえ、

にちれん
でし
なか
いたいいしん
もの
あ

日蓮が弟子の中に異体異心の者これ有らば、例せば、

じようしや
しろ
やぶ
れい

城者として城を破るがごとし。

しょうじいちだいじけつみやくしろう

(276 生死一大事血脈抄

だんけつ

団結
1775
ページー14行)

そう にちれん でし しんじゃ

じぶん たにん

総じて日蓮の弟子や信者たちが、自分とか他人、あれとかこれと

こころ

みず さかな

かんけい

おも

いったわけへだてする心なく、水と魚のような関係にある思い

いたいどうしん

なんみようほうれんげきよう

とな

しょうじ

で、異体同心に、南無妙法蓮華經と唱えていくことを、生死

いちだいじ けつみやく

いままつぼう

にちれん ひろ

一大事の血脈というのです。しかも今末法において、日蓮が弘め

きゆうきよく

ようとしているところの究極はこのことなのです。もしこのとおり

じっせん

こうせんるふ

だいがん

じょうじゆ

実践するならば、広宣流布の大願も成就するであります。も

にちれん でし

いたいしん もの

しろ

し日蓮の弟子のなかに異体異心の者があれば、それはたとえば城の

もの

しろ

やぶ

おな

なかにいる者が城を破るのと同じようなものです。